

## 【第1回の開催レポート\_さつま町観光未来研究室】

開催日時：2018年9月7日（金）14:00～17:00

場所：宮之城鉄道記念館2階会議室

出席者数：36名（欠席は12名）

内容：

### 1) 担当課（観光PR課）の下麦さんよりご挨拶

### 2) 導入

●皆さんへのお願いを共有

- ①積極参加でお願いします（反応3割増し）
- ②前向き参加（やわらか発言）
- ③リラックス参加（ストレスフリー）

●アイスブレイク

場と身体と緊張などをほぐしていくために、簡単なゲームを行う

●今日の目的の共有

まずは第1回の目的を共有。3時間の中で進めていくプログラムがそれぞれどんな目的のもとでやっているのかを都度確認していく。

- ①研究室の目指すところを共有する
- ②この場の皆さんのことを深く知り合う
- ③研究テーマをそれぞれに定める

●60秒近況報告

3～4人グループをつくり、おひとり60秒で自己紹介兼近況報告を行う。話す内容は、

- ①お名前/呼ばれたい名前、②普段やっていること、③この夏一番の思い出

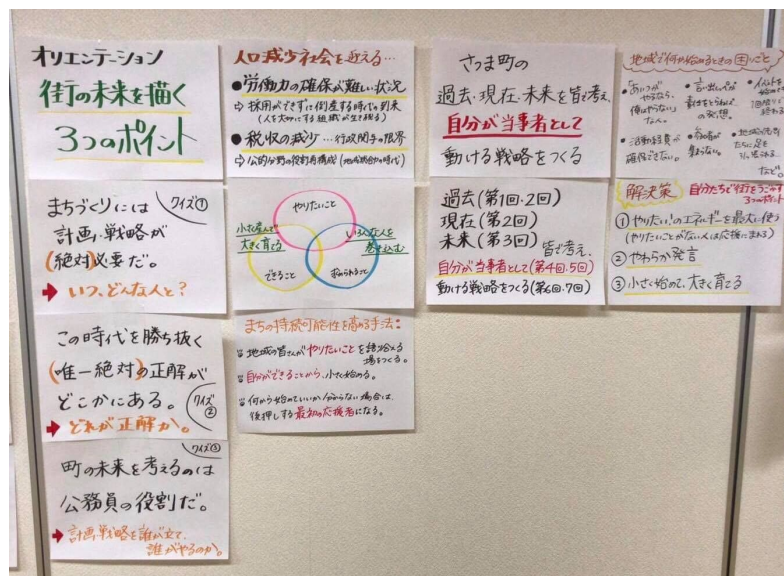
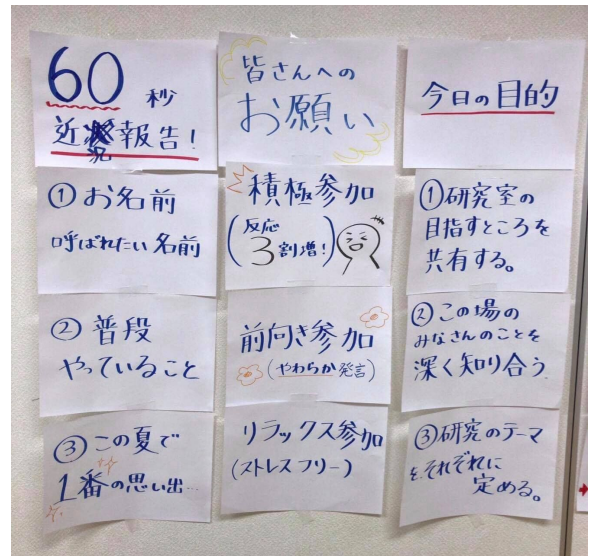
### 3) オリエンテーション（=今日の目的①研究室の目指すところを共有する）

「街の未来を描く3つのポイント」について、鹿児島天文館総合研究所Ten-Lab理事長の永山由高（ながやん）より講演。

└人口減少社会のなかで、なぜ地域づくりが必要とされているのか。人口論やTen-Labの事例をもとに知る。

オリエンテーションの内容→  
（要点のみ）

※当日のオリエン資料（投影資料）について必要な方は、「永山投影資料」を別途ダウンロードいただけます。また次回以降、オリエン資料については毎回会場に掲示します。



#### 4) ワーク「人生を振り返る」(=今日の目的 ②この場の皆さんのことを深く知り合う)

それぞれの人生を振り返り、その内容をこの場にいる皆さんと共有することで、よりお互いを深く知り合うための時間。

- ①まずは一人で「この出来事(体験)があったから、いまの自分があるなあと思えること(=印象的な出来事、人生の転換点など)を歳を追うような順番で最大5つまで書き出す
- ②3人グループをつくり、振り返りの内容を1人10分ずつ共有する
- ③振り返り、共有するプロセスを通して、どんなことを感じたかの感想共有を行う  
(⇒「共有する時間は10分だったが、まるで飲み屋で3~4時間話したってくらい相手のことを知ることができて気がする」「共有してもらった中で、すごいことができる人がいることを発見できた!」などの感想が全体からあがりました)

#### 5) ワーク「目標をセットする」(=今日の目的 ③研究テーマをそれぞれに定める)

2つの問いについてまずは1人で考える時間。

- ①自分がさつま町観光未来研究室を通して実現したいこと(実現したいことが明確にない方は、「こんなことができたらいいなあ」というふわっとした内容でもOK)
- ②さつま町観光未来研究室を通して、さつま町にどんな変化を生み出したいか(さつま町全体あるいはさつま町の観光がこんなふうになっていくといいなあという理想の未来を想像する)

⇒1人ひとりの目標をA4-1枚にまとめる。次回以降、全員の目標を毎回掲示していくため、その時の自分の思いを見返しながらプログラムを進めていく。

#### 6) 補足「組織論について」

さつま町観光未来研究室に集まっている皆さんを組織としてとらえたときに、どんなことを大切にできる組織(チーム)でありたいか。

##### 【マネジメントの変遷】

- ・官僚型組織(上意下達) → 固定の作業を効率よく進める
- ・目標達成型組織(改善と改革)  
→ 目標達成のためにチームを管理する
- ・多様な価値観包含型組織(共生思想)  
→ 合意形成による協働のスタイル

##### 【新しいマネジメントの視点】

「Teal(ティール)組織」という本が出ている。ポイントは3つ。

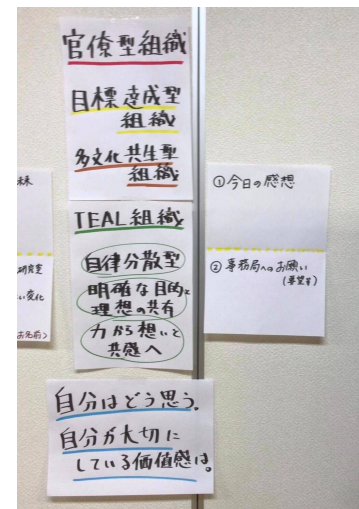
- トップが決定権を持ち、下に指示をするのではなく、1人ひとりが決定権を持って働くことができる『自立分散型』
- 組織全体に『明確な目的と理想』が共有されている
- 力ではなく『想いと共感』で動く

⇒ここに集まっている私たちは、おそらくTeal組織という在り方に近いのでは?

一人ひとりが「私はどう考えるか」「私が大切にしている価値観とは」と向き合っていくことを今回のプログラム全体を通して大切にしていきたい。

#### 7) 今日の感想を共有

3人グループで今日の感想を一人一言ずつ共有して終了。





当日の様子：

